

第6回 食品産業もったいない大賞採録

岡山県内80%近くのスーパーが参加 食品ロス削減へフードバンク提供で他社とも連携加速

登壇者●太田光一氏
ハローズ 商品管理室長

本誌3月号で既報した通り、公益財団法人 食品等流通合理化促進機構主催「第6回 食品産業もったいない大賞」から、
今月は農林水産省食料産業局長賞を受賞したハローズ 商品管理室長 太田光一氏による事例発表
「フードバンク提供促進の先進的な取組—持続可能なフードバンクへの商品提供への仕組み」の概要を紹介する。
(取材・構成／田村奈津子)

フードバンク側の負担減へ新モデル

ハローズは瀬戸内商勢圏の広島、岡山、兵庫、愛媛、香川、徳島に82店舗（2019年3月現在）を構えるスーパーマーケットチェーンです。当社では1店舗当たり毎日5～10kgの食品ロスが発生しておりました。従業員からもまだ食べられるものを廃棄するのは「もったいない」との声があり、4年前（2015年）から食品ロス削減のため、フードバンク岡山への商品提供を始めました。

スタート時は消費期限が近くて店舗で販売でき

ない商品を当社の物流センターに集め、フードバンクの方に引き取りに来てもらっておりました。しかし、続けていくうちに供給量の増大、人手やガソリン代、時間もかかるなど、フードバンク側の負担が非常に大きくなった。

そこで当社では、最終的に利用する団体・施設が近くにあるハローズの店舗に直接商品を引き取りに来る仕組み「ハローズモデル」を作りました。

フードバンクとのやり取りをハローズモデルに変更した結果、輸送経費と時間が削減され、フードバンク側の負担が軽減されました。加えて、CO₂が削減されたことで地球温暖化防止につながり、省エネルギー効果にも寄与できます。

ベタ付け景品や“ワケあり”青果も提供

提供商品の内容は、①廃棄伝票起票済みで、消費期限が残っている商品、②メーカーベタ付け景品の余り、③トリミングもしくは加工すれば食べるのに差し支えない青果、④精肉加工品などです。

ベタ付け景品とは、メーカーの販売促進用に、例えば「ビールを1ケース購入するとパスタ1袋がもらえる」というおまけ商品です。



事例発表会で壇上に立つ太田商品管理室長

第6回 食品産業もったいない大賞採録

トリミングして食べるのに差し支えない青果とは、頭部分が少し黄色に変色したブロッコリーなどです。変色すると販売はできないのですが、実際はカットして茹でれば食べられます。青果物に関しては、ハローズモデルの特徴である近隣店舗からの直接引き取りが実現したことで、提供が可能になった商品です。

また精肉加工品とはハム、ソーセージであり、消費期限の4日前に売り場から撤去するため、提供できます。

なお当社では、加工肉・デイリー・グロサリーについては消費期限が当日の商品は店舗で販売しません。ハローズは24時間営業を行っており、夜間も勤務者が消費期限をチェックしているため、前日の夜に全て撤去しております。補足として、鮮魚・精肉・総菜については消費期限当日も販売するものもございます。

商品多様化へ非スーパーにも

しかし、ハローズモデルを始めてから欠点に気が付きました。当社では廃棄伝票を切ってから商品を提供するのですが、それだとどの食品を提供できるのかが直前まで分からず、提供できる食品の種類が一定しません。商品を受け取る側からも商品が偏っていると困るとの意見があり、欠点を解消する方法を考えました。

そこで岡山県内にある当社以外のスーパーマーケットおよびドラッグストアにハローズモデルへの参加協力をお願いしました。ドラッグストアにもお声がけしたのは、スーパー以外の小売店から商品提供があれば、商品に多様性が出てくるのではないかとの思いからです。この取り組みはすぐには実現できませんでしたが、半年から1年ほどかけて了解をいただき、今では県内の食品スーパー約80%がこの取り組みに参加してくださっております。このように、食品ロス削減に向けて地



「第6回 食品産業もったいない大賞」表彰式の様子

域での取り組みを拡大することによって、フードバンクへの提供商品の内容も安定してきました。

その浸透は瀬戸内から全国へ徐々に

ハローズモデルは現在、当社の出店地域のフードバンク11団体をはじめ、子ども食堂が30団体、障害者就労支援施設のA型、B型の5団体。そして岡山県赤磐市や岡山市、広島県尾道市の社会福祉協議会、その他支援をする団体、ホームレス支援などに商品を提供しています。

当社では、一般社団法人 日本スーパーマーケット協会を通じて各スーパーへのフードバンク協力の要請を行ったり、全国を訪問しセミナーなどで取り組みのお願いをするといった普及活動も行っております。少しずつではありますが、全国のGMSやSM、ドラッグストア各社にハローズモデルが浸透してきているところです。

最後になりますが、ハローズモデルは記事としてマスコミで取り上げていただく機会も多く、フードバンクへの関心が高まり、協力してくださる方が増えてきております。首都圏のスーパーでも熱心に同モデルに取り組んでいただいている例もございます。今後もハローズモデルを全国に普及させるために、活動を続けてまいります。